

さらなる発展に向けて決意を新たに
した高松市中央卸売市場の開設
50周年式典—高松市、サンポート
ホール高松



高松市中央卸売市場

一層の発展へ決意

開設50周年記念し式典

高松市中央卸売市場（高松市瀬戸内町）の開設50周年を祝う記念式典が22日、高松市のサンポートホール高松であった。市場関係者らが出席し、長年にわたり市場運営に貢献した個人や団体を表彰するとともに、

高松市中央卸売市場（高松市瀬戸内町）の開設50周年を祝う記念式典が22日、高松市のサンポートホール高松であった。市場関係者らが出席し、長年にわたり市場運営に貢献した個人や団体を表彰するとともに、

一層の発展に向けて決意を新たにした。

同市場は、青果や水産物など生鮮食料品の安定供給を図る流通拠点として1967年に開場。85年に花き部が加わり、青果、水産物と合わせた3部門となり、

2015年に花き部が地方卸売市場に転換した。15年度の売り上げは青果、水産物の2部門で計約320億円となっている。

式典には、大西市長や同市場運営協議会の斉藤良紀会長のほか、関係者ら計約200人が出席した。市長は受賞者に表彰状を贈り、「さらなる活性化や高機能化に取り組み、生産、消費の両面で期待に応えられる安全・安心な市場運営に万全を期したい」と述べた。斉藤会長は「市場は、多くの県民の役に立ってこそ存在。これからも使命感と高い志を持って取り組み、より一層のご協力をお願いしたい」と語った。